

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400229		
法人名	有限会社 中川開発		
事業所名	グループホーム阿南向日葵		
所在地	徳島県阿南市日開野町筒路10-1		
自己評価作成日	平成27年12月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が利用者や家族の思いを汲み取れるような介護や生活支援を目指し、目標に向け施設内外の研修に参加したり、資格取得に向け研鑽している。家族会の開催などで、家族や地域住民の方たちとも合同で集える機会を設けたり”この地域で共に過ごす人たち”と認識してもらえるよう運営している。事業所周辺にはショッピングセンターや様々な店舗立ち並ぶ反面、田んぼも点在しており、情緒豊かな暮らしを送ることができる地域でもある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、様々な店舗の立ち並ぶ市街地に位置している。敷地内には田畑があり、季節の野菜を栽培している。利用者と職員で、草ぬきや収穫作業などを行っており、一人ひとりがこれまでの生活を継続することができるよう支援している。共有空間は日当たりが良く、利用者一人ひとりがゆったりとソファに座って、田んぼや山の風景を眺めることができる空間となっている。日頃から職員は、利用者と家族の希望や意向にそったケアに取り組んでいる。利用者や家族と話し合い、看取りまでの支援を行う体制づくりを行っている。また、地域の清掃活動に利用者や職員で参加するなど、地域のなかの事業所としての関わりを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所13年目を迎えた今年度当初に、心機一転全職員で改めて理念の再構築を行い、介護者の判断や考え方を常に照らし合せながら実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念“希望・笑顔・思い”を掲げている。また、全職員で理念の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と近隣住民、利用者と地域住民の日頃の交流はもとより、近隣のスーパーや行きつけの理美容室なども今までの生活と途切れることなく使用している。	利用者と職員で近隣の地域での清掃活動に参加している。事業所の防災訓練や行事に、地域住民の参加を得ており、協力関係を構築するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や事業所のイベントを通じて地域の方たちにも認知症にまつわること、一般の方にもできること、また事業所が地域に対してできることやしたいことを伝え、少しずつ着実に地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実態を具体的に説明し、委員からの意見を参考に活かしている。また、事業所からの提案なども挙げ、地域と共に地域づくりの礎となるよう努めている。	市担当職員と相談し、運営推進会議の開催日時を検討している。会議には、事業所の職員が交代で出席しており、話し合った内容や会議の意義を共有している。利用者も出席できるよう職員間で検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する疑問や提案などを運営推進会議や市役所を訪ねた際にやりとりし、風通しの良い関係になれるよう努めている。	職員は日頃から市担当窓口を訪問し、報告書等の提出等を行っている。その際に、担当職員から助言を得ている。また、課題等が発生した際には、電話で連絡をとるなどして、積極的に協力関係を構築するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に至る不適切なケアを含め、日々のミーティングや全体会議でも詳しく勉強し、防止に努めている。また、玄関の施錠は日中の職員を厚く配置した時に限ってはありますが開放し、自由に入出入りできるように努めている。	毎月の勉強会や職員会議の際に、全職員で身体拘束の弊害について話し合っている。安全確保の観点から、やむを得ず玄関の施錠を行った場合にあっても、職員はできるだけ開錠する時間帯を設けるなどの工夫を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の勉強会はもとより、時折報道で耳にする事例なども参考に、常に相手がどう思うか、その人にとって虐待や嫌な気持ちにさせてしまっていないかと常に考えて言動できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んだり、地域包括や社協にも相談したりしながら、該当利用者への支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をもって契約を締結している。また改定時は家族会などでも説明し、疑問が残らないよう同意をもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情相談体制および外部の相談機関を説明している。また日頃の面会時に利用者の近況報告をし、家族と職員の密な関係づくりに努めている。また、電話や毎月送付しているサマリーなどを介し、家族にも考えてもらう手段を設けている。	事業所では、家族会の機会に意見や要望を聞いている。職員は、家族の来訪時に利用者の生活状況等を伝えるなどして、情報を共有するように努めている。出された希望等は、運営面に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で運営者と職員が相談したり話し合う場を設け、業務に反映している。また、毎週のカンファレンスでも運営に関することも話し合っている。	管理者と職員で、日頃のケアについて話し合っている。また、年2～3回、職員にアンケートを行っている。出された意見は業務体制の改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護報酬の減額も度重なり、事業者として厳しくなっているが、管理者職員が話し合いモチベーションを上げるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会にて勉強会をしていたり、最低限基礎的な研修として、認知症介護実践者研修は受講必須とし、その他の外部研修にも参加しながら研鑽している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会などでの交流や年に2回受け入れられている実務者の実習生との関わりを持ち、事業所間と職員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階から、利用者と家族の要望等をしっかりと把握できるように努め、信頼関係をもってサービス提供ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望はもちろんのこと、利用者にも要望を傾聴し、三者にとって有意義な提案につながるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者の新しいニーズを見極め、相手の身になって一緒に支援内容を考えている。また、今できることやしてあげたいこと等、インフォーマルサービスの活用や、場合によっては他の事業者利用なども提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの人生を生きてきた自信や自負を真摯に受け止め、尊厳を損なわないよう自立を目指し、共に過ごすパートナーとしてお互いが支え合える関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできないことも多くあり、利用者の思いを汲み取りそれを代弁して協力してもらったり、家族会などのイベントを通じて家族同士の交流をもったり事業所と共に歩んでいく方針で運営している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣や馴染みの人や場所の把握に努め、関係が途切れないよう様々な資源への働きかけや協力体制につながるよう支援している。	事業所では、利用者が神社の参拝や行きつけの理・美容院等に出かけることができるよう支援している。日頃から職員は、利用者や家族との会話の中で、馴染みの人や場所を把握するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の生活リズムを尊重した上で、共同生活の中でのお互いの関わりが生まれるよう、職員は潤滑油的な存在を目指し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム周辺の利用者家族も点在しており、利用終了後も運営推進会議やイベントへに招いたり、その家族置かれている状況などにも相談にのったりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望と家族の要望を汲み取り、調整することで実践できるように努めている。また、研修の一環として、事例検討などを行い真のニーズの把握を見出すように努めている。	職員は、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の把握に努め、その人らしく生活することができるよう支援している。職員は、利用者との会話等から思いや希望を聞き取るようにしている。意志の表出が困難な方には、家族から情報を得るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人と家族からこれまでの生活習慣や生活歴などを収集し、ホームでも維持できるよう努め、これからの生活へのニーズも同様に把握し調整している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録にその日の状態が分かるように記入し、申し送り時にも伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて担当職員を中心とし、ケアの提供状況や利用者本人の課題の抽出を図り、関係者を含めた介護計画の作成に努めている。	本人や家族の意向を尊重したうえで介護計画を作成している。医療関係者や担当職員等でモニタリングを行っている。また、ケアチェック表を作成するなどして、目標や評価を繰り返し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入は勿論のこと、特記事項は業務日誌にも記入し、全員がすぐ見れるように工夫し、介護計画にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の自宅に行けない家族の代わりに職員が代行したり、妻を探して落ち着いた利用者には妻にも協力してもらい、一緒に食事をしてもらうなど、家族と共に本人と家族を支える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に一番身近な資源を家族と捉え、家族との交流を大切にし、家族にも本人が今まで触れていた資源(理髪店。飲食店、友人など)を継続的に触れ合えるよう調整している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には事業所の主治医をメインとしているが、入居時の健康診断時には本人、家族と主治医の初期の信頼関係がつかれるよう配慮し、往診時の指示なども家族に詳しく伝えている。また、他の医療機関を希望する際も対応している。	週1回、事業所では協力医療機関による往診を受け入れている。利用者の心身状況に関する報告を受けており、利用者や家族の安心にも繋がっている。家族の協力等を得て、専門科等の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	可能な限り看護師を配置し、日常の体調管理や急変時の対応など、オンコール体制をとって連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、ケアマネ、看護師が協同し、主治医への連絡や入院時の情報提供や早期退院に向けて連絡調整している。また、病院のソーシャルワーカーとも定期的に情報交換し、関係をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期を考慮した話を家族とも行い、状態の変化に応じて家族と本人が望む姿を模索し、ホームでの看取りに関してもケースバイケースに応じ、できることできないことを明確にし、家族と共に取り組んでいる。	事業所では、協力医療機関と連携を図り、終末期支援の体制を整備している。本人や家族とは、心身状況の変化に応じて話し合い、再確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し、職員会議等に対処方法の訓練をしているが、十分ではないこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日を防災の日とし、災害時に備えた訓練や勉強会を行っている。また年に1回は家族会にて地域住民と合同の避難訓練を行い、共に協力し合う関係づくりに努めている。	事業所では、毎月11日に災害に備えた訓練や勉強会を行っている。年1回、利用者や家族、地域住民とともに避難場所の確認と誘導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門性と慣れの違いを認識し、一人ひとりが有する尊厳の保持を自覚し、その人らしさを伸ばしていけるような対応を心掛けている。	日頃から職員は、利用者との関わりの中で、声かけやプライバシーに配慮した支援に努めている。事業所では、権利擁護等に関する勉強会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で利用者本人が自分からしたいことを引き出したり、個々の生活の中でも継続してやりたいことや新しくしてみたいことなどが抽出できるよう寄り添った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、天候が良い時などは気分も晴れるよう、自発的な活動を引き出せるような対応に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室を利用したり、衣類も季節ごとに家族に衣替えを手伝ってもらったりと、本人の嗜好に合わせた支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と食材の買い出しや調理、畑で収穫した物をせいらくしたり、食器拭きまで一緒に行うことで食に関する支援と共同生活での役割ができるように支援している。	利用者と職員で、食材の買い出しや調理等を行っている。裏庭の菜園で野菜を栽培し、食材として活用している。利用者と職員で同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気の中かで楽しく食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事水分摂取量をチェックし、少ない場合は栄養補助食品や嗜好物を多めに飲食できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に口腔ケアをしており、月1回の歯科医師による訪問検診で口腔ケアや治療も行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	1F		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況を把握し、必要に応じて声かけや誘導、介助を行い、オムツ利用者でもトイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を活用するなどして、排泄の自立に向けた支援を行っている。オムツを利用している方にも、トイレで排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事やこまめな水分補給、簡単にできる運動などに心掛けている。また、便秘傾向にある利用者には緩下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設定しているが、希望に応じて時間帯などの調整をしている。入浴を拒まれる方には声かけの工夫やタイミングなども考慮して安心して入ってもらえるよう努めている。	週3回、午後の時間帯に入浴することができるようにしている。利用者の心身状況や希望に応じた入浴を支援しており、入浴剤を活用して気分転換を図ったり、声かけのタイミングを工夫したりしている。介護度の高い利用者も安心して入浴することができるよう複数の職員で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は希望や体調に合わせて自室で休んでもらったり、夜間も安眠できるようにトイレ介助のタイミングを見計らって支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に状態報告をすることで薬の効能等も把握できるようにしており、服薬状況や症状の変化も申し送りや記録で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の全員参加のイベントや個々の生活習慣や思い付きの要望などにも応えられるよう、活気をもって生活できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどの日常的な外出や家族の協力による飲食店への外食、外泊など、外出なしの生活はあり得ないものだと認識し支援している。	利用者と職員で、近隣への散歩や買い物に出かけている。家族の協力を得て、外食などに出かけることもある。本人の希望に応じて、季節の行事や花見に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は金銭管理が難しくなっているが、小遣い程度の預かり金を管理し、利用者が欲する物がその時に購入できるよう、家族にも同意をもらい対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への電話の取次ぎや、本人がかきたい時の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や催し物の環境づくりや、光や温度などにも配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間は明るく、ゆったりとくつろいで過ごすことのできる空間となっている。大きな窓からは、地域の田畑や山の風景等を眺めることができ、季節を感じることができる。室内環境に注意し、加湿器や空気清浄器を設置している。利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で過ごすことができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の自席以外に、各人が状況に応じて自由に行動できるよう居場所づくりに努めている。また、利用者同士の関係が深まるよう職員が仲介して気心許せる関係づくりにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が望むものや自宅で慣れ親しんでいた家具や日用品を持ち込んでもらい、心地よい空間が再現できるように努めている。	居室には、利用者の使い慣れたベットやタンスなどの家具を持ち込んでもらっている。利用者や家族と相談し、衣類等の整理も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限度の手すりやナースコール、トイレや居室の表札の整備はもとより、個々に合わせた介護用品を使用し、残存機能の維持や向上に配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所13年目を迎えた今年度当初に、心機一転全職員で改めて理念の再構築を行い、介護者の判断や考え方を常に照らし合せながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と近隣住民、利用者と地域住民の日頃の交流はもとより、近隣のスーパーや行きつけの理美容室なども今までの生活と途切れることなく使用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や事業所のイベントを通じて地域の方たちにも認知症にまつわること、一般の方にもできること、また事業所が地域に対してできることやしたいことを伝え、少しずつ着実に地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実態を具体的に説明し、委員からの意見を参考に活かしている。また、事業所からの提案なども挙げ、地域と共に地域づくりの礎となるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関する疑問や提案などを運営推進会議や市役所を訪ねた際にやりとりし、風通しの良い関係になれるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に至る不適切なケアを含め、日々のミーティングや全体会議でも詳しく勉強し、防止に努めている。また、玄関の施錠は日中の職員を厚く配置した時に限ってはありますが開放し、自由に入出入りできるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の勉強会はもとより、時折報道で耳にする事例なども参考に、常に相手がどう思うか、その人にとって虐待や嫌な気持ちにさせてしまっていないかと常に考えて言動できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んだり、地域包括や社協にも相談したりしながら、該当利用者への支援をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をもって契約を締結している。また改定時は家族会などでも説明し、疑問が残らないよう同意をもらえるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情相談体制および外部の相談機関を説明している。また日頃の面会時に利用者の近況報告をし、家族と職員の密な関係づくりに努めている。また、電話や毎月送付しているサマリーなどを介し、家族にも考えてもらう手段を設けている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会で運営者と職員が相談したり話し合う場を設け、業務に反映している。また、毎週のカンファレンスでも運営に関することも話し合っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護報酬の減額も度重なり、事業者として厳しくなっているが、管理者職員が話し合いモチベーションを上げるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会にて勉強会をしていたり、最低限基礎的な研修として、認知症介護実践者研修は受講必須とし、その他の外部研修にも参加しながら研鑽している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会などでの交流や年に3回受け入れられている実務者の実習生との関わりを持ち、事業所間と職員の質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階から、利用者と家族の要望等をしっかりと把握できるように努め、信頼関係をもってサービス提供ができるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望はもちろんのこと、利用者にも要望を傾聴し、三者にとって有意義な提案につながるよう関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と利用者の新しいニーズを見極め、相手の身になって一緒に支援内容を考えている。また、今できることやしてあげたいこと等、インフォーマルサービスの活用や、場合によっては他の事業者利用なども提案している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの人生を生きてきた自信や自負を真摯に受け止め、尊厳を損なわないよう自立を目指し、共に過ごすパートナーとしてお互いが支え合える関係を目指している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできないことも多くあり、利用者の思いを汲み取りそれを代弁して協力してもらったり、家族会などのイベントを通じて家族同士の交流をもったり事業所と共に歩んでいく方針で運営している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣や馴染みの人や場所の把握に努め、関係が途切れないよう様々な資源への働きかけや協力体制につながるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の生活リズムを尊重した上で、共同生活の中でのお互いの関わりが生まれるよう、職員は潤滑油的な存在を目指し支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム周辺の利用者家族も点在しており、利用終了後も運営推進会議やイベントへに招いたり、その家族置かれている状況などにも相談にのったりしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望と家族の要望を汲み取り、調整することで実践できるように努めている。また、研修の一環として、事例検討などを行い真のニーズの把握を見出すように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人と家族からこれまでの生活習慣や生活歴などを収集し、ホームでも維持できるよう努め、これからの生活へのニーズも同様に把握し調整している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録にその日の状態が分かるように記入し、申し送り時にも伝達している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて担当職員を中心とし、ケアの提供状況や利用者本人の課題の抽出を図り、関係者を含めた介護計画の作成に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入は勿論のこと、特記事項は業務日誌にも記入し、全員がすぐ見れるように工夫し、介護計画にも反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の自宅に行けない家族の代わりに職員が代行したり、妻を探して落ち着かない利用者には妻にも協力してもらい、一緒に食事をしてもらうなど、家族と共に本人と家族を支える支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者に一番身近な資源を家族と捉え、家族との交流を大切にし、家族にも本人が今まで触れていた資源(理髪店。飲食店、友人など)を継続的に触れ合えるよう調整している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には事業所の主治医をメインとしているが、入居時の健康診断時には本人、家族と主治医の初期の信頼関係がつかれるよう配慮し、往診時の指示なども家族に詳しく伝えている。また、他の医療機関を希望する際も対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	可能な限り看護師を配置し、日常の体調管理や急変時の対応など、オンコール体制をとって連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、ケアマネ、看護師が協同し、主治医への連絡や入院時の情報提供や早期退院に向けて連絡調整している。また、病院のソーシャルワーカーとも定期的に情報交換し、関係をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期を考慮した話を家族とも行い、状態の変化に応じて家族と本人が望む姿を模索し、ホームでの看取りに関してもケースバイケースに応じ、できることできないことを明確にし、家族と共に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し、職員会議等で対応方法の訓練をしているが、十分ではないこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日を防災の日とし、災害時に備えた訓練や勉強会を行っている。また年に1回は家族会にて地域住民と合同の避難訓練を行い、共に協力し合う関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門性と慣れの違いを認識し、一人ひとりが有する尊厳の保持を自覚し、その人らしさを伸ばしていけるような対応を心掛けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で利用者本人が自分からしたいことを引き出したり、個々の生活の中でも継続してやりたいことや新しくしてみたいことなどが抽出できるよう寄り添った支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、天候が良い時などは気分も晴れるよう、自発的な活動を引き出せるような対応に心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室を利用したり、衣類も季節ごとに家族に衣替えを手伝ってもらったりと、本人の嗜好に合わせた支援に努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と食材の買い出しや調理、畑で収穫した物をせいらくしたり、食器拭きまで一緒に行うことで食に関する支援と共同生活での役割ができるように支援している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事水分摂取量をチェックし、少ない場合は栄養補助食品や嗜好物を多めに飲食できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に口腔ケアをしており、月1回の歯科医師による訪問検診で口腔ケアや治療も行い、清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況を把握し、必要に応じて声かけや誘導、介助を行い、オムツ使用者でもトイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事やこまめな水分補給、簡単にできる運動などに心掛けている。また、便秘傾向にある利用者には緩下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設定しているが、希望に応じて時間帯などの調整をしている。入浴を拒まれる方には声かけの工夫やタイミングなども考慮して安心して入ってもらえるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は希望や体調に合わせて自室で休んで頂いたり、夜間も安眠できるようにトイレ介助のタイミングを見計らって支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に状態報告をすることで薬の効能等も把握できるようにしており、服薬状況や症状の変化も申し送りや記録で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の全員参加のイベントや個々の生活習慣や思い付きの要望などにも応えられるよう、活気をもって生活できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどの日常的な外出や家族の協力による飲食店への外食、外泊など、外出なしの生活はあり得ないものだとして認識し支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は金銭管理が難しくなっているが、小遣い程度の預かり金を管理し、利用者が欲する物がその時に購入できるよう、家族にも同意をもらい対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への電話の取次ぎや、本人がかかけたい時の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や催し物の環境づくりや、光や温度などにも配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の自席以外に、各人が状況に応じて自由に行動できるよう居場所づくりに努めている。また、利用者同士の関係が深まるよう職員が仲介して気心許せる関係づくりにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が望むものや自宅で慣れ親しんでいた家具や日用品を持ち込んでもらい、心地よい空間が再現できるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限度の手すりやナースコール、トイレや居室の表札の整備はもとより、個々に合わせた介護用品を使用し、残存機能の維持や向上に配慮している。		